



\*:

1 ポートエッセイ –MICEの波及効果に期待–

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

\*:

8月は夏休み、帰省等々で人の移動が多い季節である。海外旅行にも行かれた方々も多いと思うが、近年の円安はいささか頭が痛い問題でもあろう。

一方円安により外国人観光客にとって日本への旅行意欲は高まっている。新型コロナウイルスの影響を受け、インバウンド観光は一時的に低迷していたが、最近では回復傾向にあるようだ。日本の観光名所や文化体験、グルメなどが外国人観光客には人気で、その様子がたびたび報道されている。インバウンドの増加はさまざまな経済効果を生み、地域の活性化に寄与する等、影響は大きい。

このような観光もたらす経済効果と同様に経済波及効果が大きいとされるのが、「ミーティング」「インセンティブ」「コンベンション」「エキシビション / イベント」を総称した「MICE」の開催だろう。MICEは会議開催、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動の裾野が広く、開催地域を中心に大きな経済波及効果をもたらす。一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待される。

先般、私は新潟市長としてカンボジアのシェムリアップで行われた「国際青年会議所JCIアジア・太平洋会議(ASPAC)」の総会に出席し、2026年新潟開催のための誘致活動を行った。ASPACは、国際青年会議所を世界四地域のブロックに分けたうちのアジア・太平洋地域の会議であり、4つの地域会議の中でも最も参加人数が多い会議である。PRするプレゼンテーションでは昨年のG7財務大臣中央銀行総裁会議等の国際会議の実績のほか、本市が誇る食、酒、芸術、文化などの魅力を伝え、その後の採決の結果2026年の新潟開催が決定された。

2年後の6月に開催予定の2026ASPAC新潟大会は、国内はもとより、アジア・太平洋地域を中心に各国の青年会議所メンバー約1万人が来訪するかつてない大規模の国際会議となる。各国から訪れた方々との人的交流は経済波及効果と同様に「人」「モノ」「金」「情報」が開催場所に集積することでもたらされる目に見えない波及効果も期待できる。

今後、大会の成功を目指し、関係機関と一丸となって取り組んでいきたい。そしてこれは、新潟市の震災からの復興に向けた大きな力になるものと思っている。

\*:

## 2 トピック

\*:

### ●小樽港クルーズセミナーを開催しました

小樽市産業港湾部港湾室

令和6年7月31日(水)、「クルーズdeツナグ・プロジェクト」\*の取組みの一環として、小樽港クルーズ推進協議会(会長:小樽市長)の主催により「小樽港クルーズセミナー」を開催しました。

令和6年4月に小樽港第3号ふ頭の大型クルーズ船対応岸壁の供用が開始されたことにより、市内に新たな人の流れが生まれています。小樽港が寄港地として選ばれつづけるために、クルーズ船のビジネスモデルや寄港地に求められるものなど、クルーズ船への理解を深めてもらうことを目的として、小樽市内の観光関連事業者等を対象にセミナーを開催しました。

当日は2部構成で、第1部では約30名、第2部では約60名の参加がありました。第1部では、クルーズ船「飛鳥Ⅱ」の入港に合わせての開催により、船内見学会を実施しました。

第2部では、郵船クルーズ株式会社 営業部 法人営業チーム チーム長の 大石様から「選ばれる小樽を目指して～船社から見た小樽の魅力と課題について～」と題し、クルーズ船のランクごとの特性やビジネスモデルに加え、船社の視点から小樽港の魅力や課題について講演をいただきました。また小樽市産業港湾部 港湾室 港湾振興課課長の 富樫より「クルーズ船担当者は見た！！乗客の一日」と題し、クルーズ船寄港予定表の見方や、クルーズ船担当者の視点から見た寄港時の乗客の行動パターン等について説明しました。

セミナーに参加した事業者からは、「クルーズ乗船客の誘客から地域経済の循環までやるべき事のイメージが持てた」などの感想がありました。

※クルーズdeツナグ・プロジェクトHP

[https://www.mlit.go.jp/report/press/port04\\_hh\\_000439.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/port04_hh_000439.html)



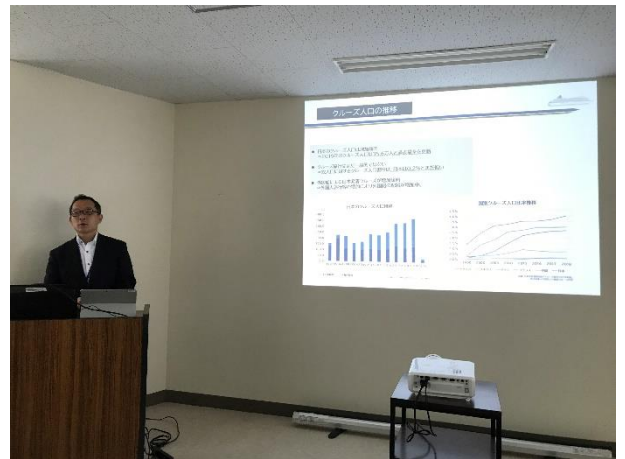
クルーズ船「飛鳥Ⅱ」



船内見学会の様子



小樽市長による主催者挨拶



郵船クルーズ株式会社 大石様による特別講演



小樽市 富樫港湾振興課長による情報提供

●伏木富山港(新湊地区)中央ふ頭再編整備事業完成式典を挙りました

北陸地方整備局 伏木富山港湾事務所

令和6年6月22日(土)、伏木富山港(新湊地区)中央ふ頭2号岸壁にて「伏木富山港(新湊地区)中央ふ頭再編整備事業完成式典」を挙りました。

中央ふ頭は、木材チップや石油コークス等のバルク貨物の取扱拠点として、地域の基幹産業を支える重要な役割を果たしていますが、船舶の大型化や貨物需要の増大を受け、バルク船の非効率なバース運用の改善が喫緊の課題だったことから、本事業では、これらの課題を解決するため、中央2号岸壁の増深改良(水深10m→水深14m)を実施しました。

式典には堂故国土交通副大臣をはじめ、橘衆議院議員、野上参議院議員、柴田参議院議員のほか、新田富山県知事、夏野射水市長など約80名の方々にご出席いただき、ご来賓の皆様からは本事業を通じた伏木富山港の更なる発展に向けて期待の声が寄せられました。

また、式典では昨年当事務所のみなど見学会に参加した地元小学生とともにテープカットが執り行われ、事業の完成を盛大に祝いました。



テープカットの様子

●「豊橋みなとフェスティバル2024」にブース出展しました！

中部地方整備局 三河港湾事務所

令和6年7月15日(月)に「豊橋みなとフェスティバル2024」が開催されました。このイベントは例年「海の日」に開催されており、幅広い世代の方に、港に親んでもらうとともに、港の重要性や役割、港湾への理解を深めてもらうことを目的としています。

当事務所のブースでは、パネルと三河港タペストリーを用いて三河港の特徴を紹介しました。また、子ども向け体験コーナーの『お弁当作り』では、食べ物が海外から船を通じて日本の食卓に届いていることを説明して、港の重要性を知っていただきました。



お弁当作り体験



タペストリー展示

●高松港で液状化実験を公開！

四国地方整備局 高松港湾空港技術調査事務所

7月の「海の月間」イベントとして、令和6年7月20日(土)に高松港湾・空港整備事務所と高松港湾空港技術調査事務所の主催により「高松港みなとフェスタinサンポート高松」を開催しました。

当日は、約150名の方に液状化の仕組みや液状化対策の事例について、簡易な装置を使った液状化実験やパネルで説明し、市民の方々に防災について関心を持っていただくとともに、当事務所の取組について紹介しました。

実験では、地中から物が浮かび上がってくる様子を子供が不思議そうに見つめていたり、大人からは「液状化が発生しやすい場所は？」「近年よく目にする液状化について、仕組みや被害が理解できた。」等、多数の質問や感想がありました。

今後もこのようなイベントを通じて、四国の皆さまに港湾における防災対策の重要性や、当事務所の取組について理解を深めていただけるよう、活動を続けていきます。



液状化実験の様子



パネル展示の様子

\*:

### 3 お知らせ(みなとのイベント情報)

\*:

◇イベント名: 湊まち新潟歴史ウォーク -学んで歩いてポタリング-


【開催日時】 令和6年7月30日～令和7年3月19日

【場 所】 新潟市内

【概 要】 普段見られない船の見学・乗船や、自転車で散策する「ポタリング」などのまち歩き、講演会、食にまつわる体験講座など、新潟市内にある湊町ゆかりの地を巡り、歴史と魅力を学ぶ

【問合せ先】 NPO法人新潟みなとクラブ

【U R L】 <http://minatoclub.la.coocan.jp/>



**湊まち新潟歴史ウォーク**  
**- 学んで歩いてポタリング -**  
7/30(火)～3/19(水) 全8コース

**主催：湊まち新潟歴史ウォーク実行委員会**  
構成団体 NPO法人新潟みなとクラブ・NPO法人いがた湊あねさま倶楽部  
共 催 北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所



◇イベント名:外国クルーズ船「ナショナル・ジオグラフィック・レゾリューション」歓迎イベント

【開催日時】 令和6年8月31日(土) 6:00入港/17:00出港

【場 所】 茨城港大洗港区第4埠頭

【概 要】 外国クルーズ船「ナショナル・ジオグラフィック・レゾリューション」の茨城港大洗港区初入港に併せて、歓迎式典及び歓迎イベントを開催。カジキ釣り国際大会を中心とした総合イベント『IBARAKI INTERNATIONAL FISHING FESTIVAL in Hitachinaka-Oarai Resort』と同時開催。

【問合せ先】 茨城県土木部港湾経営室(029-301-4536)

【U R L】 [クルーズ船の寄港情報／茨城県 \(pref.ibaraki.jp\)](https://pref.ibaraki.jp)



←QRコード

